

もしものときに備えて

自然災害から命を守る



台風19号のときの避難所の様子



冠水した吉井地域の住宅地



橋脚が沈下した八千代橋

床上まで浸水した家

集中豪雨や台風による河川の氾濫や土砂崩れなどの災害が、全国各地で毎年のように発生しています。今回号では、市の災害専用電話や公用車による避難の呼びかけなどの対策や、もしものための備えについてお知らせします。

問い合わせは、防災安全課（☎321・1352）へ。

「雨の降り方が激しくなってきた不安だ」「近所の川が氾濫したらどうしよう」。集中豪雨や台風などによる水害や土砂災害はいつ起こるか分かりません。市内でも昨年10月の台風19号により、住宅や施設の浸水、橋や道路の損傷などの被害がありました（上写真参照）。

市は、こうした自然災害に備え、市民を守るさまざまな対策を行っています。避難の手助けをする災害専用電話の設置、公用車などによる避難の呼びかけ、市内をくまなく点検する危険箇所総点検。さらに、今年は九州地方に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」を受け、高齢者や障害者の施設の避難計画を再確認しました。

自然災害から命を守るには、日頃の備えが必要です。もしものときに命を守るため、災害専用電話の番号、ハザードマップを使った避難時の行動を確認するなど、災害に備えてください。

市ホームページ



↑切り取ってご利用ください
キリトリ線

キリトリ線

↑切り取ってご利用ください
キリトリ線



災害時に自力で避難できない人は…

高崎市の災害専用電話

☎027-321-5000

避難が必要になったとき、自力で避難することができない人は、「高崎市の災害専用電話」に連絡してください。市の公用車やバスが迎えに行きます。本人の他、周囲の人でも手助けが必要な場合は電話してください

ハザードマップで危険箇所や避難先を確認



ハザードマップ（災害時の被害予測地図）は、水害や土砂災害が発生する可能性のある地域や、指定避難所などの情報を掲載しています。身近にある危険箇所や避難経路の確認など、もしものときに備えて活用してください。ハザードマップは、市役所7階防災安全課や各支所地域振興課、各市民サービスセンターで配布しています。市ホームページ（右記）でも見られます。



避難方法を見直してください

自宅周辺が危険な状況でなければ、必ずしも避難所に避難する必要はありません。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、安全な場所にある親戚の家に避難するなどの分散避難も検討してください。夜間など避難自体が危険なときは、2階以上の部屋や、山・崖の斜面と反対側の部屋に移動してください。

(3) 高崎市役所 ☎027-321-1111

実際にやってみました

1. 地域の災害の危険性を知る



◀自宅周辺や地域の危険箇所を確認。指定避難所や経路もチェック

所要時間や地図だけでは分からない危険箇所がないか確認

2. 避難所まで歩く



◀近くの避難所の他、親戚の家など、避難できる安全な場所を決める

3. 避難所以外の避難先を考える



災害に備える市の取り組み

市は、いつどのような被害をもたらすか分からない自然災害に備え、事前の災害対策に取り組んでいます。

危険箇所総点検を実施中

市内の危険箇所などをくまなく点検する危険箇所総点検を、平成26年から行っています。今年度は、昨年10月の台風19号で浸水被害が多かった地区を中心に、地元区長



改修工事などの対策は順次実施への聞き取り調査や再点検も含め市内151河川や用排水路、道路の側溝など約4,300箇所の点検を実施しています。

高齢者施設などの避難計画を点検

「令和2年7月豪雨」を受け、市内にある高齢者や障害者の施設の避難計画について緊急点検を行いました。浸水や土砂災害の恐れのある区域の約130施設を対象に、利



計画の具体性や有効性を検証する人数などを踏まえ、避難方法などの計画を確認。防災への意識啓発を図りました。問い合わせは、長寿社会課（☎321-1248）へ。

早めの避難所開設と避難の呼びかけ



災害の危険が見込まれるとき、早めに避難所を開設します。市の公用車86台と、小中学校や市有施設の113か所に設置された防災スピーカーを使って、避難を呼びかけ。この他、安心ほっとメールや市ホームページ、市防災情報ツイッター・フェイスブック、ラジオ高崎などさまざまな手段で情報を発信します。

避難が必要になったとき、自力で避難することができない人は「高崎市の災害専用電話☎027-321-5000」（本紙3ページ参照）に連絡してください。市の公用車やバスで迎えに行きます。

避難所の新型コロナウイルス対策

避難所では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、手指消毒や検温、マスク着用、換気、咳エチケットの呼びかけなどさまざまな対策に取り組んでいます。また、密閉・密集・密接の「3密」を避けるため、一人一人のスペースの確保に努めます。ご協力をお願いします。

(5) 高崎市役所 ☎027-321-1111

Interview 現役高校生の防災士に聞きました

自分の地域を知って 災害に備えてください

防災士 岩淵 陸斗さん
(下豊岡町)



高校1年生のとき、関心があった防災士の資格を取りました。普段、地域の自主防災組織で防災に関するアドバイスなどを行っています。昨年の台風19号では自主避難所として開設した豊岡小で、駐車場の整理などに携わりました。自然災害から命を守るには、水害が起きやすいなど、まず自分の地域の特徴を知ることが大切です。もしものとき、命を守る行動が取れるよう、日頃から備えてください。

誰もが安心して避難できる場所に コミュニケーション支援ボードを配備

災害時コミュニケーション支援ボードを作成し、市の指定避難所に配備しました。これは、聴覚に障害のある人や日本語が苦手な外国人などを支援するもので、避難所での意思伝達に役立ちます。



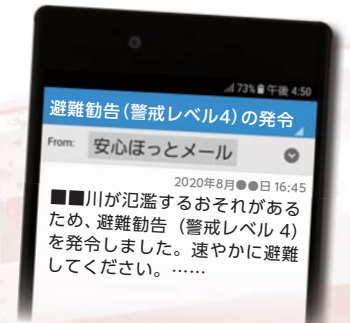
安心ほっとメールで防災情報を確認

安心ほっとメールは、携帯電話などのメールアドレスを登録した人に、地域の情報などをお知らせするメール配信サービスです。気象情報や市が発令する避難勧告などを24時間、メールで受け取れます。地域の気象や避難に関する情報を確実に得るために、安心ほっとメールに登録してください。費用は無料です（通信料は利用者負担）。

問い合わせは、情報政策課（☎321-1210）へ。

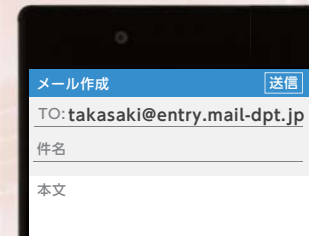


詳しくはこちら

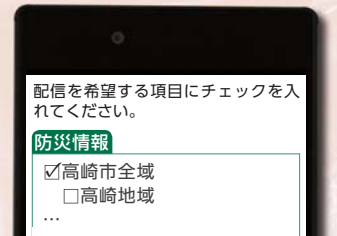


安心ほっとメールの登録方法

1. [takasaki@entry.mail-dpt.jp]宛てに、件名と本文を入力せず、空メールを送信



2. 送られてくるメールの指示に従って、登録する



迷惑メール受信防止の設定をしている場合は、anshinhot@city.takasaki.gunma.jpからのメールを受信できるようにしてください

さまざまな方法で防災情報を発信

安心ほっとメール以外にも、次のような方法で情報発信をしています。命を守るため、積極的に情報を集めてください。

- 市ホームページ
- 市防災情報ツイッター
- 市防災情報フェイスブック
- ラジオ高崎（76.2MHz）



もしものときに必要な物の確認・準備を

ハザードマップを参考に、現金や保険証、医薬品、衣類、毛布など非常時に持ち出す物や、缶詰やレトルト食品、飲料水などといった備蓄品の確認と準備をしてください。避難所の備蓄品には限りがあります。自宅にいても水道などのライフラインが停止する可能性があるため、各自の備えが大切です。乳幼児や高齢者・障害のある人のいる家庭では、粉ミルクや紙おむつ、介護用品などの用意も必要。また、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒液、体温計なども準備してください。



中身は定期的に確認を。マスクや消毒液なども忘れずに

↑切り取ってご利用ください

キリトリ線

↑切り取ってご利用ください

キリトリ線